慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	岡山孤児院の東京運動 : 東京事務所日誌・ 明治四十年一月以后十二月
Sub Title	A Diary of Tokyo Office of Okayama Orphanage
Author	小野, 修三(Ono, Shuzo)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2007
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 社会科学 (The Hiyoshi review of social sciences). No.17 (2007. 3) ,p.46(39)- 84(1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10425830-20070331-0084

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

〈資料〉

岡山孤児院の東京運動

――東京事務所日誌・明治四十年一月以后十二月――

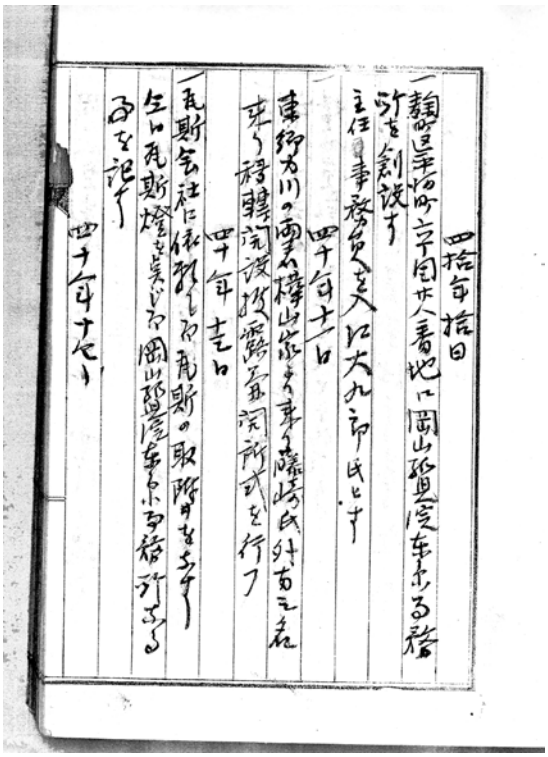
小野修三

解題・凡例

一、本稿は社会福祉法人石井記念友愛社・石井十次資料館の所蔵する資料の一つで、表紙に直に「四十年一月以后十二月」と墨書され、そしてその同じ表紙の上に「東京事務所　日誌」と墨書された紙片が糊付けされている一冊の冊子に記載された内容を、その複写物から判読し、同福祉法人理事長児嶋草次郎氏の許可を得て、ここに翻刻するものである。

二、その複写物は二〇〇三年に当時シカゴ大学大学院生のタンヤ・マウス氏が、宮崎県児湯郡木城町所在の石井記念友愛社・石井十次資料館にて調査された際に、私のために複写してくれていたもので、その親切にこの度ようやく答えることが出来た次第である。なお、原本は同資料館の資料整理に従事している石井十次研究会が付した整理番号ではA-2-84とされている冊子である。

三、複写物として手元にあるのはＢ４版で表紙が一枚、本文が八四枚の計八五枚である。その本文は一ページが一二行の罫紙（十二との商標が印刷）であり、ページ数は振られていないので、その本文に便宜的にページ数を振れば、全一六八ページという分量となるが、最初のＢ４一枚と最後のＢ４一枚は共に半分記入がないので、その空白部分を除くと二ページ少なくなり、本文は明治四〇年の一年間の記事が一六六ページに亘って、毛筆によって記載されていることになる。なお、原本がもともと冊子だったのか、半葉一二行の罫紙を後に袋綴じにしたものかは複写物からは判断出来なかった。



四、本文第一ページ目の第一行目に記されている日付は明治四〇年一月一〇日（原文の表記は「四拾年拾日」）であり、この日付が本文の記載の如く岡山孤児院東京事務所の創立日ということになるが、同じ時期に大阪でも「新事務所」が発足していた。その同じく明治四〇年一月から始まる岡山孤児院大阪事務所の日誌は、社会福祉法人石井記念愛染園（大阪市浪速区日本橋東所在）が保管しており、「岡山孤児院大阪事務所の開設――日誌・自明治四〇年一月至明治四一年一月三月――」（上下）として小笠原慶彰氏、松田隆行氏および私小野修三の三名によって既に翻刻がなされている。（『四天王寺国際仏教大学紀要』平成一四年度、人文社会学部、第三五号および『慶應義塾大学日吉紀要社会科学』二〇〇二年度、第一三号参照）。

五、言わば岡山孤児院の創立二〇年の記念事業として大阪と東京で同時に開設された両「新事務所」の、明治四〇年一年間の活動内容の比較は、両事務所の日誌の翻刻が揃ったので、ある程度進展すると思われる。しかし岡山孤児院の大阪事業の展開に関しては、永岡正己氏の研究「石井十次と大阪事業の展開」（同志社大学人文社会研究所編『石井十次の研究』一九九九年、所収）等によって、またわれわれのこれまでの翻刻「出入橋と愛染橋の明治四二年から明治四四年――岡山孤児院大阪事務所の日誌――」（『慶應義塾大学日吉紀要社会科学』二〇〇三年度、第一四号）や「大正期大阪の社会事業ネットワーク――史料・岡山孤児院大阪分院週報――」（『慶應義塾大学日吉紀要社会科学』二〇〇一年度、第一二号）によって把握され得るが、しかし東京事務所の事業展開に関して、本稿以外の史料としては同じく石井記念友愛社・石井十次資料館に明治四一年の日誌が部分的に残っている他は石井個人の日記たる『石井十次日

誌』が参照出来る程度であり、今後の研究調査が待たれる。

六、今回の東京事務所日誌によって確認される事項のなかで、石井十次が上京したのは、明治四〇年六月一六日から二四日まで足掛け九日間の一回だけであり、この上京は明治四〇年度の『石井十次日誌』からも確認出来るが、前年の明治三九年には『石井十次日誌』によれば一年間に二度の上京があった。すなわち、明治三九年一一月一〇日から二五日までの足掛け一六日間と一二月六日から二一日までの同じく足掛け一六日間の二回であった。この明治三九年中の二度の上京によって、翌四十年一月の「新事務所」の開設は準備されていたと言えよう。また『石井十次日誌』編者注によれば、明治三九年一一月現在の本院事務所は「神田錦町今城館内」（『石井十次日誌（明治三十九年）』、昭和五二年、一六六ページ）であった。

七、東京事務所主任は日誌の最初に記されている「入江大九郎」であるが、この日誌の主たる筆記者は明治四〇年二月一七日の箇所で初めて名前の出る「山本福七」であった。事務所の所在地は、これも日誌の最初に記されている「麹町区平河町六丁目廿八番地」であるが、やがて事務所が「神田区美土代町一ノ二二」に移転していることは、明治四三年八月二五日から『基督教世界』に一週間ほど連載された岡山孤児院の広告記事等によって知ることが出来る。

八、今回の翻刻に際しては、これまでと同じく、花園大学文学部助教授松田隆行氏の助力を願った。判読に自信の無い個所を一緒に考えてもらっているが、そうした個所もそれ以外の個所も、また表記の方針に関してもその責任はすべて私小野にある。

九、表記の方針は、次の通りである。

Ⅰ. 表記は原則として原文通りとした。

Ⅱ. 当て字は、そのままとした。明らかな誤字・脱字と思われる箇所も原則として訂正していない。ただし、内容の理解に支障をきたすと思われる場合のみ行間に（　）で注記したが、了解困難な個所は（ママ）とルビを振った。

Ⅲ. 原文には句読点がほとんど無い。今回補うことはまったくしていないので、数箇所見える句点は原文にあったものである。

Ⅳ. 一日ごとの記述の間のスペースも原文のままとしたので、スペース無しで次の日の個所になる場合と、何行か空白を置いて次の日の記述が始まる場合とが混じることとなった。

Ⅴ．人名に関しては、一部プライバシー保護のため伏せ字とした。その場合には、文字分だけ□で表記した。

Ⅵ．地名に関しては、一部プライバシー保護のため伏せ字とした。その場合には、文字分だけ□で表記し、行間に（地名）と注記した。

なお、本稿は二〇〇六年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（C）「明治・大正期における岡山孤児院の大阪事業展開――地方行政との協働関係を中心に――」（代表小野修三）による研究成果の一部である。記して謝意を表す。また二〇〇六年八月には私は宮崎県児湯郡木城町所在の石井記念友愛社内の大原館に滞在し、友愛社の朝から夜までの二四時間を初めて体験させて頂いたが、これは歴史研究上大変貴重な数日であった。この滞在の機会を与えて頂き、また今回の翻刻を許可頂いた理事長児嶋草次郎氏にも感謝の気持をお伝えしたい。

〈表紙〉

四十年一月以后十二月

東京事務所

日誌

〈本文〉

四拾年拾日

一麹町区平河町六丁目廿八番地に岡山孤児院東京事務所を創設す

主任事務員を入江大九郎氏とす

四十年十一日

東郷力川の両君樺山家より來り藤崎氏外両三名來り移轉開設披露兼開所式を行フ

四十年十三日

一瓦斯会社に依頼して瓦斯の取附をなす

仝日瓦斯燈を点じて岡山孤児院東京事務所なる事を記す

四十年十四日

一岡山孤児院東京事務所の票札を掲ぐ

四十年十五日

一樺山令夫人の御來訪あり賛助員たるの約束を下さる仝時に松方令夫人にも御承諾セらたり（れ脱カ）

四十年拾六日

一本日は同情者の一人にして又特志事務員たる本郷区弓町一ノ二五佐藤里き子夫人來訪あり賛助員勸誘の任を諾セられたり

四十年廿一日

一弐百円也集金社より來る夜に入りて救世軍の矢吹君來訪す

四十年廿三日

一本日午后七時半の発列車にて入江氏と山田君と共々岡山ニ帰るの順備をなし留守は東郷矢一君に依頼す

四十年二月八日

一本日午前十一時二十分新橋着列車にて入江主任帰京ス留守中別に記すへき事なし

二月十二日

一集金社ヨり百六拾円持來す

浅川氏より金弐拾円の寄附あり

二月廿三日（ママ）

一小原小児科医院より通券料四拾九円を受領す

二月十四日

一土居君横濱より來る

二月拾七日

一山本福七氏東京事務所詰事務員として來任す

樺山夫人入江夫人佐藤里き子夫人の來訪あり

二月十八日

一本日ヨリ賛助金（四十年分）ノ集金を初む

本日の集金賛助金拾壱円也

二月十九日

一金弐拾五円也賛助金集金す

二月廿日

一金拾八円也賛助金を集金す

一大阪の御仁來りて金六円を院に寄附せらる

二月廿一日

一賛助金集金高拾五円也

二月廿二日

一賛助金集金高六円也

二月廿五日

一佐藤里き子夫人及藤嵜君片岡君ノ來訪ニ接す

一賛助集金高廿四円也外に拾銭
一佐藤夫人より賛助員の申込取次を受く
二月廿六日
一主任事務員横濱に行き夜帰宅セり
一賛助集金高拾壱円也
二月廿七日
一賛助集金高九円也
一基本金貳拾円也原光子殿より受領す
二月廿八日
一賛助集金高拾円也
一基本金貳拾円也岸澄子殿より受領す
三月壱日
一芝区田町三丁目松井岳次郎殿より青年の教養致し度き様申込ありたり
一賛助集金七円也外ニ拾五銭
参月貳日
一基本金六拾円也　永田町村井吉兵ヱ殿より受領す
一臨時寄附壱円也佐々木芳子殿ヨり受け
一賛助金拾貳円也集金す外ニ拾銭
一番町教会ニ慈善会開会順備をなす
参月参日
一本日（日曜日）にて禮拝に列す
参月四日
一賛助集金高拾貳円也
一
参月五日
一賛助集金高弐拾弐円也
一基本金拾円也　京橋三宅貞子殿より領収す
一土井伊藤君の二氏横濱より來り三日間滞在の見込なり
参月六日
一賛助集金参拾参円也
一仝
参月八日
一賛助集金拾八円也
一入江氏通券賣を初む三時間にシて八円を賣る
参月九日
一番町教会に慈善会開会は十一日十二日と定む
一賛助集金拾三円也
一入江氏通券拾円八十銭を賣りて帰る

一臨時寄附五十銭　新名直和殿より受領

参月拾日

一博覧会出品の備をなす

一賛助金参円也

一

参月拾一日

一番町教会に慈善活動写眞会を開会す

一賛助集金拾五円也

一基本金貳拾円也　赤坂髙橋品子殿より領収ス

参月十二日

一第二夜番町教会に於て慈善会を開会す

一金壱百円也　塩田照子氏より寄附あり

一賛助集金髙四円也

一基本金壱円也　青山内村芳子殿より領収す

一番町教会慈善会純収入髙金〔記入ナシ〕

参月十三日

一賛助集金拾八円也

一青年□□□君□□□君の両氏岡山本部より來着ス仝時孤児帰国者三名來る　□□□□及女子ノ三名なり

一土井君及伊藤君急行帰院す（本部より電報により）

一東京市小石川区関口水道町□□（地名）□□□□□方□□□□氏帰宅す

参月十四日

一寄附金三十九銭七厘　美幸坂教会日曜学校生徒

一賛助集金弐拾五円也

一基本金六円也　赤坂髙橋艶子殿より領収す

一□□及□□の両人を郷里に送還す

一福島縣大沼郡本郷町字□□（地名）町□□□□□方□□□□□□□□氏帰国す

参月十五日

一賛助集金拾三円也

一福島縣西白河郡社村大字深渡戸字□□□□（地名）□□□□□男□□□氏帰国す

参月十六日

一賛助集金貳拾壱円也

一基本金五円也　麻布浅野春子殿より収入

参月十七日

一児島虎次郎氏來訪あり博覧会出品の事を托す

参月拾八日

一賛助集金拾参円也

一番町教会より壱百七拾円を受領す但し慈善会の通券代及寄附金とす

一壱円也　臨時寄附青木金梅殿より

参月十九日

一賛助集金高拾壱円也

一基本金五円也　淀橋日下清子殿より受領す

参月廿日

一入江氏本日博覧会の開会式に望む

一賛助金拾九円也集金す外に六十銭

一五拾銭　市ヶ谷賀賀(ママ)町山田たき子殿より寄附

参月廿一日

一賛助集金高拾八円廿銭

一品川御殿山西村氏より三百円の寄附を受く親父永眠に就き

一

参月廿二日

一博覧會出品額縁を上野公園第壹号館に掲グ

一賛助集金高九円也六拾銭外に受領

一

参月廿三日

一賛助集金五円也

一

参月廿四日

一山田與志子姉來京外部員となる

一

参月廿五日

一賛助金集金高四円也

一本日は三月中の収支決算をなす本部送金す

一本日岡山ヨリ□□□□子□□□□子□□□□子氏等上京す

参月廿六日

一一同博覧会見物す

参月廿八日

一賛助集金高八円也

一基本金貳拾円也四谷塩町一ノ廿三柳谷千代子殿より領収す

一田中助牧師及青野牧師組合派教役者大会出席の為め上京事務所を宿泊所に定めらる

参月廿九日

一賛助集金高拾弐円也
一伊豫今治教会牧師露無文次氏來着仝じく事務所に宿泊す

参月三十日

一賛助集金高金拾弐円也
一入江氏日本聯合基督信徒共勵会ニ出席す

参月三十一日

一賛助集金壱円也
一露無牧師一度今治に帰郷セらる
一寄附金二円也露無氏より受領

四月一日

一賛助金なし
一□□君□□君を京橋区南紺屋町伊東製版所ニ入れ午前中を費す
（入江氏）
山本事務員病気欠勤す

四月二日

一賛助集金高四円也
一基本金拾円也小石川音羽台鳩山春子殿より領収す
一金田桑子姉來訪す

四月三日

一賛助集金拾壱円也
一基本金弐拾円也小石川金冨町濱尾作子殿より領収す
一萬国青年大会本日より神田美土代町青年会館ニ開会セらる

四月四日

一賛助集金七円也
一入江君青年大会に傍聴す

四月五日

一賛助集金九円也外に拾銭月掛分受領す

四月六日

一賛助集金七円也
一基本金弐拾円也　浅草佐ヱ門町一中山幸子殿より領収す
一神戸より山野氏（同情者）來訪宿泊せらる
一入江君青年大会に傍聴す

四月七日

一日曜日休務一同教会に禮拝す

四月八日

一賛助集金四円也

一橋本宇三郎氏（賛助員）より五円の寄附あり入江氏出張受領す

一露無氏及田中助氏の両氏帰郷セらる

四月九日

一賛助集金高七円也

一青野氏帰郷セらる入江氏午前中青年大会に傍聴す

四月拾日

一賛助集金四円也

一金二円也寄附を受く

一小野氏帰神セらる

一本日は一同弐拾年紀念会の案内状を配布に罹る

四月拾一日

一雨天の為め外部運動を中止し内事務に勤む

一

四月拾二日

一賛助集金高八円也外ニ拾円及弐円廿銭受領

一

四月拾三日

一賛助集金高なし但し二十年紀念会案内状配布の為め集金を中止セり

一本日小石川区水道町久世佳隆殿より弐拾円の寄附ありたり

一金弐拾円也赤坂桧町山脇房子様より領収す

四月拾四日

一本部より來電あり山田與志子姉直ニ帰岡セられたり

四月拾五日

一賛助集金拾一円也

一入江氏華族会館の婦人会に應援す

一山田與志子氏帰院セらる（午后拾時にて）

一麹町内幸町高木鎌子殿より基本金弐拾円也領収す

四月拾六日

一賛助集金高五円也

四月拾七日

一賛助集金四円也

一基本金弐拾円也京橋山下町横田千之介殿より領領（ママ）収セり（但し入江氏出頭受領す）

四月拾八日

一ブース大将來京東京座にて歡迎会を開く入江氏傍聴す　拾銭月掛賛助金集す

一仝夜拾時新橋発列車にて入江山本綱島夫人の三人にて岡山に出発す

但し孤児院二十年紀念会に出席の為めとす

四月拾九日

一入江山本綱島夫人午后八時無事岡山に着の來電あり留守記す

本日より以後四月三十日迄は入江氏帰京後記録す

四月廿日（本部二十年祝会記）

一岡山孤児院二十年祝会を岡山孤児院公会堂内に開会す司会者河本乙三郎氏とす

四月廿一日

一岡山孤児院二十年祝会桜花見を後樂園に催さる

四月廿二日

一本日より岡山孤児院々役者会を開き今後の運動方針を議す（孤児院公会堂内）

四月廿三日

一前日仝様参謀会議を開く大に新任事務員の参考する所あり

四月廿四日

一前日仝様参謀会議を開く本日を以て大體の方針を定む

四月廿五日

一本日閑院宮妃殿下岡山孤児院へ御臨院ありたり仝時に金五拾円下賜セられたり

四月三十日

一賛助金弐円也

一入江氏岡山より帰京す

一高原事務員本部より來る

五月壱日

一本日の來訪者、□□□□子、□□□□子、□□□子、菊地氏の四氏とす

五月二日

一山本事務員岡山より帰京土井夫妻及榊原夫妻共々來着本日より大に事務所内大に繁昌す

一

五月三日

一山本事務員麹町区隼町三の牧野常二郎氏方に住所を定む

一

五月四日

一土居事務員住所を定めて引移る

一賛助集金弐円也

五月五日

一日曜日　記すべき事項なし

五月六日

一賛助集金七円也外ニ二円也樺山氏より受領青山方面に慈善会開会準備を成す

五月七日

一記すべき事項なし

一青山美以教会に於て慈善会開会に定む

五月八日

一山田治三郎君本部岡山より來着セらる

一土井事務員は青山開会の準備廣告に盡瘁す

五月九日

一賛助集金参円也

一本日は一同青山方面に通券を賣る各戸抗撃して大に得る處ありたり

一

五月拾日

一賛助集金参円也

一本日は山田君土井君入江君の三名通券賣にと盡力す

一長谷川芳子氏來着孤児院主婦たらんとの由本部と交渉中

一本部より來電あり平豊彦氏を岡山慈善会に聘セんと入江氏大に盡力セらる

五月拾一日

一賛助集金五円也

一本日は一同青山に通券を賣る

入江氏廿銭券拾三枚　長谷川廿五枚　其他五六枚宛午后榊原夫人拾五枚長谷川氏二枚を賣る

五月拾二日

一日曜日榊原夫人通券拾七枚を賣る

五月拾三日

一賛助集金壱円也

一本日青山南町五美以教会に慈善会を開会す入場者壱百五拾名來会あり

一慈善会純収入高七拾四円弐銭五厘

五月拾四日

一本日は慈善会の第二夜を開会す入場者壱百名余十時前無事閉会す

一賛助集金高参円也外ニ六円八拾銭受領

五月拾五日

一賛助集金四円也外ニ弐拾銭受領拾銭受領

一

五月拾六日

一賛助集金高七円也外に弐円也領収す

一美幸坂開会順備をなす通券賣上土井夫人山本夫人長谷川芳子氏の三名にて八円程を賣上ぐ

一□□□□君□□□□子出発帰郷す

一

五月拾七日

一賛助集金四円也

一

五月拾八日

一賛助集金六円也

一入江氏美幸坂に通券を賣る壱円四十銭収入

一

五月拾九日

一救世軍矢吹氏の三男永眠の為め入江氏葬義に列す

一本日は日曜日にて休養す

一

五月廿日

一拾五銭賛助金領収す

一入江氏神田原氏宅に行き東北送還児の為め大に談合す孤児中食を原氏宅にてなす事に定む前川君來所セらる共に東京運動の事を談ず

一

五月廿一日

一臨時寄附（東北送還児の為め）新橋より上野ステーションニ至る迄の受領拾円五拾銭

一賛助集金弐円也

一東北送還児壱百廿一名及附添拾一名午後壱時十分新橋に着す一

同歡迎す夫れより一同を神田原氏の宅に案内し中食を終り上野博覧会を見物して午后九時上野発列車にて東北に向ふ本日の附添職員は亀山校長を始め田中、水田、林、木佐木、坂根、赤木、大野、赤野、伊藤、安藤、園田、氏等とす

一特志を以て児島虎次郎氏前川氏の両君上野より仙台迄附添はれたり

一壱同の夕食はライオン歯磨小林商店池の端ライオン館にて馳走せらる

一□□□□子氏來所す

一

五月廿二日

一本日は美幸教会に開会す來会者三百名盛会なりし小崎令夫人開会の辞を述べらる

午后十時無事閉会帰館す

一

五月廿三日

一本日開会第二夜來会者二百名

一前夜と仝じく小崎令夫人に開会の辞を願ふ大に仝夫人の熱烈なる御盡力を得たり

仝所総収入高壱百弐拾円四拾五銭也

差引純収入高壱百六円三十九銭とす

一賛助集金参円也

一

五月廿四日

一賛助集金弐円也

一入江氏通券配布に係る入江氏の一家分家す

一小島虎次郎氏東北より孤児一名を収容し來る但し本部より誤名にて東北に還セしモノとす

一

五月廿五日

一亀山校長及林、田中、赤木、赤野、大野、園田、安藤、木佐木、(水田)、(坂根)、氏東北の任を終りて帰京事務所に宿泊す

一賛助集金弐円也

一

五月廿六日

一水田氏帰院す

一職員諸氏一同博覧会見物す榊原山田の両氏夫れが案内者となる

一入江氏福音教会に行く

五月廿七日

一高田増平氏より物品の寄贈あり

一赤坂教会に開会す來会者満場大に迫害ありたり
一本日亀山校長及赤野、大野、三氏及孤児二名帰院す
一本日の決算書は亀山校長に托す
一

五月廿八日

一入江氏牛込矢來町開会の順備を兼通券を賣る
一赤坂教会開会第二夜高野能樹君前夜共開会の辞を述べらる
來会者満場本日は巡査を依頼セし為め静粛に閉会セり
一前川君東北より帰館す
一慈善会純収入高四拾六円五十銭也

五月廿九日

一牛込開会の為め通券を賣る白銀町廿九渡辺氏より参円を寄附セらる
一本日は一同通券賣に係る
一本日林、赤城、両君帰院セらる
一芝区愛宕町下町一ノ三林博太郎殿より五拾円を寄附セらる

五月三十日

一本日は雨天の為め一同休務内部整頓につくす
一長谷川氏採用六ケシとの電報本部より來る
一

五月三十一日

一賛助集金高一円拾五銭
一牛込矢來町福音教会に開会來会者五拾名意外の感ありたり多分ミソカの故ならんと思われたり明日一日開会の豫定なり
一井上牧師開会の辞を述べらる

六月一日

一本日は牛込福音教会開会の第二夜ナり一同盡力通券を賣る來会者壱百名余
一

六月二日

本日入江氏土居氏は芝三田ニ開会順備をなす

六月三日

一長谷川芳子氏を本部ニ送ル仝時ニ木崎姉安藤姉本部に帰る一同見送りをなしたり

六月四日

一市ヶ谷近藤廉平氏宅より物品の寄送あり山本事務員及入江主任と共に出張受領す
一賛助金壱円也集金弐拾銭月掛ノ分受領す
一

六月五日

一本日は入江氏及土井氏の両人三田開会に就て通券を賣る山本事務員は賛助員に係る事務をとる
一水曜日にて綱島氏の聖書研究講義あり
一

六月六日

一飯久保牧師開会の辞の下に活動写眞会を開会す中々盛会なりし來会者百四拾名十時無事閉会セり
一賛助金壱円也
一

六月七日

本日も三田美以教会開会來会者二百名盛会なりし長谷川氏本部より帰るの電報ありたり
一
一

六月八日

一本日は三田開会を終り一同後始末をなす午後より土井君榊原君前川君山本の四氏婦人共立育児会の慈善会ニ行く後より土居夫人、山家嬢、江本嬢、入江氏及高子氏來り逢ふ共に十一時帰宅セり
一慈善会に消費セし金額は拾三円五十銭にして交際費として事務所費中ニ加ふ
一
一

六月九日

一本日井口夫妻上京す
一
一

六月拾日

一入江氏福永氏を訪ふて大森開会を談ず快托しセり矢野恒太氏ノ紹介を得て外に中松盛雄氏の三名を発起者依頼する事になして帰宅セらる
一外の一同は本郷開会順備をなす
一
一

六月拾一日

本日は入江氏大森に出張し開会順備をなす
本日は中央会堂ニ開会す來会者者三百名中央会堂としては不入なりし収支決算を大に慮る處あり平岩牧師開会の辞を述べらる
一賛助金弐円也集金す

六月拾二日

本日は中央会堂開会第二夜來会者三百名ありたり拾一時無事閉会
純収入六拾円余
賛助金拾銭領収す

六月拾三日

入江氏松方安子様方より物品受領す山本事務員案内状を以て大森倶樂部に行き委托して返る
本日樺山常子夫人及高麗蔵氏來所す慈善芝居第一回発起者会を開会セしなり
入院孤児□□□□を収容す

六月拾四日

入江榊原石原氏の三氏大森に行き廣告をなす他の事務員は本郷の後始末に盡力す

六月拾五日

入江氏樺山家に行き種々慈善芝居の事を談ず午后より大森に一同出張し夕食を矢野恒太氏の厚意にて給せられ一同愉快に食して開会に係る矢野氏の開会の辞あり雨天雷雨にも不係來会多数盛会なりし矢野恒太氏は院長石井氏とは岡山にて同窓の友なりしよし矢野氏中松氏福永氏発起の下に御三名にて剣舞及蓄音機を御雇ひありて御寄附ありたり福永氏は案内状及返りの器械運搬賃を寄附せられたり

六月拾六日

本日は大森開会第二夜なり雨天なりしも盛会なりし本日は昼食を福永氏の宅にて馳走せられ夕食は中松氏の宅に一同馳走を受く本日は中松氏開会の辞あり來会者二百名収支決算残額壱百円余あり好結果に終りたり是れ発起者諸彦の御盡力によらずんばあらず深く感謝す夜拾一時すき帰宅一同床に臥す
仝夜十一時頃石井院長來所セらる但し横濱より本田君も同道セられたり

六月十七日

本日より石井院長朝の集りをなす中々適切なり本日賛助員二名出來たり三田開会決算書出來六拾円也の純収入を得たり榊原君大森の後始末をなす前川君山本両氏中野開会順備に出張す山田君本郷後始末をなす

長谷川君本朝より事務所にあらず

榊原君大森集金壱百八円也持ち返る

賛助金壱円也集金す

六月拾八日

一本朝院長より一同馬太傳五章ノ講議を聞く

一本日賛助員二名出來集金弐円ありたり

一小石川原町十一ノ仁科盛純氏より物品寄送あり山本事務員出張受領す

榊原君大森より拾五円を集金し返る

山田君本郷方面山本神田小石川方面ニ入江氏ハ京橋方面前川氏は中野方面ニ向ふて各其分を盡セり夜七時半より山本事務員樋口菊氏の結婚式を當事務所に綱島牧師司式の下に開く

一金田くわ子氏來所あり共に式に列セらる

六月拾九日

本日は松尾君永眠の電報あり院長横濱に急行す夜に入りて帰京せらる

賛助員二名申込ありたり

目下中野及銀座に開会順備中なり中野は前川君銀座は入江氏受持ち奔走セらる

本日は雨天の為め一同潜勢力を養ふ

院長朝の講話馬太五章二五、三二、迄

本日午前九時主任入江氏の夫人女子を分娩セらる母子共至極健全安子と命名セられたり

賛助金壱円也集金す

六月廿日

院長朝の講話馬太傳五章ノ三三ノ三九

大原氏新橋駅に到着の筈院長及土居君歡迎す

午后三時の列車にて院母上京せらる松尾君の姉上も共々上京せられたり

賛助集金弐円也

寄贈物品を二ヶ所に受く

六月廿一日

本日は入江氏山本の両氏銀座会館に出頭開会の事を英語学校生徒一同に依頼す

本部より石井院長依頼のブック及画帖來る

前川山田土井山本中野の廣告運動をなす

大庭猛氏來所し直に帰る

六月廿二日

院長朝の集会馬太傳五章目にて目をツグなへの講義ありたり

午后院長横濱に行かる

本日大森クラブ開会決算書出來す純収入壱百壱円拾二銭なり

銀座及四谷の開会順備あり院長上京の為め書簡及電報續々として來る

□□□□子氏東北より來らる

六月廿三日

赤坂演伎座に於て軍人後援会の慈善演藝あり入江氏山田君の両氏見物す山脇房子夫人会頭の任にあられたる為め交誼交換の為めなりと

六月廿四日

入江氏銀座に通券を賣る三光堂にて五拾枚を賣る大成効石井院長午后拾時発列車にて夫妻帰岡セらる仝時に長田菊子氏も共に孤児弐名を連れて帰岡セらる

中野町宝仙寺に第一夜を開会す入場者四百八拾名あり盛会ナリシ

六月廿五日

本日は吉澤氏より参拾円入江氏寄附を受く

中野宝仙寺第二夜開会入場四百名盛会なりし

中野町純収入三拾円余ナリシ

賛助金四円也集金す

六月廿六日

本日は雨天の為め外部運動中止シ六月中の収支決算の順備をなす
明日明後日銀座開会の予定なり
入江氏通券弐円拾銭を賣る夜は聖書研究会を開き綱島牧師講話あり
上野義太郎氏へ通券代七円三十銭を戻送金す

六月廿七日

本日は銀座会館に開会設備をなす土井君入江氏山本出張す七時半ヨり開会鵜飼牧師に開会の辞を述べて貰ふ來会二百名雨天にも不係盛会を得たり拾時閉会セリ

六月廿八日

本日も銀座会館開会第二夜なり前夜同様鵜飼牧師に開会の辞を述べて貰ふ來会者二百名盛会なりし純収入壱百七十円廿七銭五厘ありたり
午前中入江氏服部時計店にて五拾券五拾枚を賣る大成効なりし
賛助金壱円十銭月掛ノ分集金す
寄附金弐円也入江氏扱無名氏より受領

六月廿九日

本日は銀座開会後始末に係る山本は賛助員を訪問して拾壱円拾五銭を収金す
入江氏は銀座会館より三拾五円六十銭を受領す
賛助金弐円也集金す外に月掛廿銭領収

六月三十日

決算書（六月中）本部へ送る
本日は決算に午前を費す
本田君來所直に帰濱セリ

七月一日

本日は入江氏銀座の集金を終りて決算書を本部に送る
山本君本日休務す妻病気の為め午后銀座迄行き一円九拾銭通券代を得て帰る

七月二日

本日は四谷開会日なれ共前川君突然本部に帰る
山本事務員妻病気の為め欠勤す夜に入りて開会の手傳ひをなす

高野牧師開会の辞を述べられたり百五拾名の來会者あり盛会にて拾時閉会帰宅す

七月三日

本日も山本事務員欠勤す但し妻病気の為めとす午后出勤す六月中の事務所決算残高九拾四円三十五銭一厘山陽商業銀行宛送金す

本日は四谷福音教会開会第二夜なり來会者百五拾名午后十時無事閉会セり

本日銀座開会決算書を京橋教会及銀座会館に送る

七月四日

本日午后一時より榊原夫人樺山夫人松方夫人及高麗蔵の四氏來所あり慈善芝居第二回発起者会を開会す松方夫人より立食の饗應ありたり四時頃一同退出セられたり

本日山本事務員病気欠勤す但シはげしき頭痛の為め

七月五日

本日は四谷の後始末に出張す土居君は通券代受領の為め山本榊原君は器械の整頓に山田君は赤坂方面に入江氏は銀座に向ふ午后一同休務す

大森入新井村矢野恒太殿取次神田元黒門町二十奥田ツカ殿より拾円也寄附ありたり

七月六日

本日は入江氏博覧会褒状受與式に臨まれたり岡山孤児院は銀牌受領セりと云ふ大賀大賀

孤児引受方依頼シ來りし者あり但シ神田原氏紹介

山本事務員は京橋教会及二三賛助員方に集金シて一文も集金出來ずむなしく帰る

榊原君小石川に集金す

土居君吉沢にライムオ求む

七月七日

本日は日曜日一同休務す（雨天）

入江氏午后より日本橋開会につとむ來る十八日十九日開会豫定なり

賛助員藤嵜氏來訪セらる

七月八日

本日は雨天入江氏日本橋開会順備に出張す日本橋教会開会七月十八日十九日と確定す

本日廣告を書く

七月九日

本日は火曜日（雨天）内部の整理日本橋教会開会順備土居君賛助員一名募集す

渡辺英太郎君米国より帰朝当事務所に立寄らる

七月拾日

三宅君大阪より來京す

本日は水曜日（雨天）入江氏日本橋に通券を賣る山田君横濱に夜聖書研究

七月拾一日

本日木曜日（雨天）本日午後より日本橋賛助員へ通券を配布に係る

山田君横濱より帰る

七月十二日

本日は金曜日（晴天）榊原山本日本橋の賛助員に通券を配布に係る

入江氏に特別運動に土居君王子に出張十五日十六日開会と定めて帰る

夜廣告を書く（王子に係する）

一同番町教会祈禱会に行き十時帰宅セり

賛助金七円也築地二十古河方より受領セり

七月十三日

本日土曜日（雨天）

賛助金壱円四拾銭山本事務員集金

本夕七時より市ヶ谷田町近藤邸内に活動写眞会を開会す寄附金拾円を仝家より受領す

榊原君王子に向ふ

入江氏日本橋に通券賣に出張す

夕食は近藤家にて入江氏土居氏永岡君山本の四氏にて馳走になりたり

七月十四日

本日雨天（日曜日）

土居君榊原君朝より王子に出張すモ他一同教会に行く山本菊氏受洗す

入江氏日本橋教会に夜に入りて王子に應援す榊原山田土居永岡山本五名王子廣告運動に係る

七月十五日

本日は府下王子村に開会する為め東京より八氏出張セり來会者意外の少数にて四十有余名に不すぎ（ママ）午后十時閉会一同帰京す根本氏尤も奔走セられたれ共其甲斐少かりしは遺憾なりしとは根本氏の言なりし当日王子村村西捨吉氏より金貳円を寄附セられたり

入江主任日本橋運動兼午後より王子に應援セられたり

七月十六日

本日は王子村第二夜開会日火曜日

入場者壱百五十名

午后十時三十分一同王子発帰宅セり

本日の寄附者小寺小林山本堀江氏等とす

入江氏日本橋尋常小学校に通券を托す

七月十七日

本日水曜日土居榊原山本の三氏王子村に後始末に出張午後七時帰宅セり

七月十八日

本日木曜日本日日本橋本銀町壱丁目十九日本橋教会ニ開会する為め朝來より順備に罹る

來会者四百名学生九分を領す

七月十九日

本日（金曜日）日本橋教会開会第二夜來会者二百名学生は十五銭宛にて入場を許シたり

榊原君王子に出張す壱円七十銭を集金す

七月廿日

日本橋開会後始末に罹る入江氏午后十一時の列車にて岡山に行く

安藤氏より物品の寄附ありたり

集金弐円五十銭　日本橋の特別寄附トシテ

七月廿一日

日曜日一同休務

七月廿二日

月曜日本日土居君横濱に開会場所定めにと出張す山本日本橋後始末に係る

山田治三郎君榊原栄君各々任地に出発す土居君午後十一時頃帰京せらる

主婦杉浦姉來所せらる本部よりも通信なく当方よりも別に通信なし

入江氏宛はがき一葉差出

本日集金貳円五拾銭特別寄附として入金物品寄附二件

七月廿三日

永岡君日本橋本船町本田氏宅に勤務する事になる

山本日本橋に行き賛助金八拾銭及寄附金五拾銭を受く

大島君來所す北海行途中なり

別に記すべき事項なし

七月廿四日

本日水曜日曇天冷気あり

大島君今朝出発す

松浦姉も本日出発セらる

七月廿五日

本日渡辺英太郎君岡山に向ケ出発セらる当事務所に滞在する事拾七日間とす

七月廿六日

山本青山ニ行き賛助金弐円三十五銭を集金す

七月廿七日

入江氏岡山より帰京セらる北海出発順備に忙し

本日は決算書を造る

七月廿八日

本日日曜日諸員休務ス

宮井君大塚君來所セらる宮井氏は三十日を以て北海道地方に向かはる、由大塚氏は東京事務所詰として來任セられたり

山本事務員隼町を引上げ當事務所に引移り留守番となる

七月廿九日

本日は月曜日賛助金壱円収入

石井院長より山本宛書面來る　西郷隆盛傳と吉田松陰傳の注文アリ

七月三十日

本日火曜日晴天　賛助金六円収入寄附金壱円

入江土居二君北海道に出発す

大塚氏日本橋に山本事務員は芝に向ふて各夕刻帰所セり

午后七時入江氏土居氏上野駅を発す

本部より電報あり器械は東京の分をとらる、事となりたり

本日院長宛吉田松陰傳送る

なさけの庭写眞三葉本部へ送る

本日月の決算書本部宛送る

七月三十一日

本日水曜日晴天山本事務員病気欠勤セり宮井氏の依頼により北海道長官河嶋閣下への添書を得る為め大塚氏京橋国民新報社に至り徳富先生より其添書を受け直に宮井氏に発送セり宮井氏宿所北海道札幌区南一條西四丁目石田氏方トノ報告ありたり

安富重之進殿へ女中の件断る

八月壱日

賛助金参円七十銭集金す山本午后高輪台町高輪教会に慈善会開会の為め同教会を借る為めに交渉をとり

高輪教会五六両日開会に定む

八月二日

本日芝二本榎二ノ十九高輪教会に行き夫れより大塚氏は明治学院に山本は各賛助員を訪ふて通券を托したり午后七時各帰所す

大塚氏夜は賛助員勸誘に行カる

本日箱館大島君より電報あり一一ヒカイカイホーザンイルコイ

大塚氏夫人会々長に面シて十銭券百枚弐十銭五十枚五十銭五拾枚

を托して帰られたり

八月三日

本日は土曜日早朝降雨あり直に止む
大塚山本共々芝二本榎に向ひ通券配布につとむ為めに終日を費し
午后七時帰所す夜松本（出身者）氏來訪幸に慈善会の手傳を依頼す
夜半入江氏より電報あり
小樽市花園町遊園館に止宿を報ず

八月四日

本日の日曜日は大塚氏と共に高輪教会に列し大塚牧師より鷹山先生の話しを聞く終りて大塚氏より慈善会の教会員諸氏に依頼して散会となりたり仝時に仝教会より大塚牧師へ車代として差上げし金品を直に仝氏より孤児院に寄附セられたり
廣告を各所に帖して午后五時頃引上げたり

八月五日

本日は開会第一日なり本日は会場設備に係る午後七時半より開会
來會者二百名にて盛会なりし
高輪教会幹事山下岩太郎氏尤も盡力し（ママ）セらたり
当日は土居夫人有松氏松本氏の手傳を得て開会セり十時前閉会セり本日現金収入六円三十銭

八月六日

本日第一夜開会入場者壱百名余現金収入拾円五銭午前中に第一軍楽隊來着一行十四名
賛助員一名申込
山田君横濱より來京
拾時閉会帰宅夜一時床に就く一同大に労す

八月七日

本日は会場後始末に行く大塚氏二三賛助員訪問セられ午后帰所セられたり
楽隊一行午后七時三十分発列車にて北海に向ふ一行の健康を祈ると共に成功を祈る
日本橋常盤小学校生徒より壱円三十銭寄附を受く

八月八日

本日は大塚氏下痢症に罹り休務山本も午后より大に不快なり一同休務す

八月九日

本日は午前中より高輪に行く通券配布セし内を各戸に訪問して賛助金壱円寄附金壱円通券代トシテ拾四円三十銭収入ス午后大塚氏は浅草に山本は事務所に帰り内事務を取る

入江氏より電報ありビワシタチバナタノムヘン

八月十日

本日大塚氏と両人にて高輪に向ふ集金高八円九十銭午后一時帰所す

本日本部へ通信す

八月拾一日

本日は日曜日にて休務す山本大塚の両人富士見町教会に列す

本日入江氏へ返電す「タチマナヱンロユケヌ」

夜半北海函館大島君より電報アリ（カツドウレンスフンジツシタ吉沢ヨリ買入スグモツテコイ）

八月十二日

大塚氏活動レンズ持参にて北海に出張す

山本事務員高輪に行き井深令夫人を問ふ午后は神田方面に行き二円廿銭集金す

本部に大塚氏北海出張を報じ合せて慈善会収入を報告す

八月十三日

大塚氏（宇都宮）より通報あり上野（七時三十分）発宇都宮（十時廿分）発北海道に向ふ由本日夕方青森着とオボヱタリ

賛助員訪問やうやく三十銭を収金す

外ニ二三不在の為め或は轉宅為め不能逢して帰る

本日は小石川柳町二二井原メリヤス店内ニ花房姉を訪問して賛助員勸誘を依頼す

十四日

水曜日晴天本日は本郷の賛助員訪問をなす

本日は賛助金四円廿銭を集し慈善袋五枚を預けて返りたり

午后は入江大九郎氏宛孤児院写眞大小各拾枚宛小包便にて送発す

拾五日

木曜日本日は雨天の為め外出セす帳簿の整理をなす宮井君轉宿の報あり（札幌区内石田商店内）戸川賛助課長宛端書を送ル但し新賛員の住所を尋ぬる為めなり
午前中入江大九郎氏の用務にて芝区巴町東京区裁判所に行き十一時半帰館セり

拾六日

本日賛助集金弐円廿五銭山本小石川赤坂本郷に向ふて運動す七尾春子堀民子氏へ慈善袋を依頼す
大学青山内科看護婦森田と志子氏及田村まさ子氏の両氏へ慈善袋を托して帰る

拾七日

本日土曜賛助集金六拾銭
市ヶ谷救世軍士官学校内大平政吉氏賛助員に御加入あり本月分収入す
伊集院殿及本田嘉左ヱ門殿二氏より物品の寄附あり山本受取りに出張して貰受け帰る
入江氏より手紙あり東京事務所の留守を心配し來る

拾八日

日曜日本日大塚泉弥氏北海道より帰京セらる是れより萬事進捗するならん
休務す

拾九日

本日月曜日晴天炎暑なり
大塚氏高輪に向ふ
山本本郷より小石川に向ひ新賛助員一名及他に壱円也収金す午后五時半帰宅
大塚氏高輪より七円五拾銭を集金す
本日寄贈品中不用の品を賣却す其代金参円弐拾銭也入金す
本部より年繰用紙來る端書にて佐久間君へ返事す
榊原氏より三銭切手及二銭切手一銭切手取まぜ壱円七十銭を買入ル

廿日

火曜日晴天温度華氏九拾弐度
山本は午後より神田及青山方面に出張賛助員勧誘につとめたれ共

得る處なかりし
大塚氏は仝じく午后より京橋及日本橋に向ふて七時頃帰宅セられたり

廿一日

水曜日晴天而かし少しく冷気あり
大塚氏は本郷及向島方面山本は小石川に向ふて賛助金九拾銭を収金す外に弐ヶ所新賛員を訪ふて午后六時帰宅セり
本部より通信來らず当方又通信セず

廿二日

木曜日大塚氏は本郷及向島方面に向はる山本は小石川高田に向ひ午後五時帰宅す別に記すべきなし
夜大塚氏と共々四谷福音教会に高野牧師を問ふ

廿三日

金曜日本部ヨり通信あり前川君及上森君辞職を報ず
風雨の為め休務す

廿四日

土曜日雨天暴風雨の模様あり外出出來ず一同引籠る
土居事務員より通知あり（ライム）弐罐吉沢より買入レ北海道旭川笹岡旅館宛発送す仝時に千人写し孤児院写眞大壱枚是は北海道岩内の島野秀吉氏宛送附セり
先般大塚氏北海道に出張の際レンズト共に仕入たる焼筒弐個本日序を以て吉沢に返納す後日の為め記す
昨午后壱時頃賛助員岩井早子氏永眠セられたり謹て葬送セんと協議セり

廿五日

本日日曜日休務前日來引續き降雨あり外出困難なり本日北海道土井氏及入江氏よりはがき來り曰く黒田清輝氏揮毫の画はがきを送れと曰く小型写眞器送れと共に荷造りをなして発送し仝時にはがきを以て其由を各泊に通知セり本部より通信なし
宮井事務員より通信あり北海道の開会地及日割を報じ來る即ち左に
八月十一日十二日十三日（函館）八月十五日十六日（岩内）八月十九日廿日（小樽市）八月廿三日四日（栗山）八月廿五日廿六日（角田）九月一日二日三日（旭川）九月五日六日（岩見沢）九月十二日十三日十四（札幌）

右岩見沢は予定にて他は確定之由報じ來る

廿六日

本日は月曜日午前中暴雨の為め外出セず
午后山本牛込市ヶ谷に向ふ仲町九條家内田村澄子氏より賛助金壱円を領収す
大塚氏は飯田町鈴木梅吉氏及イーストレーキ氏を訪問して午后六時帰宅セられたり

廿七日

火曜日雨天朝來降雨しきりなり一同内勤に盡す小沢俊夫殿より物品寄送の通知を受け山本受領に出張し荷車を借りて積み帰る中々沢山の寄送ありたり仝時に金五円を寄附を受く（ママ）

廿八日

水曜日晴天炎暑なり大塚氏は榊原の小林ライオンを問ふて慈善券の引換をなす金参円三十三銭五厘受領し來らる
山本事務員は四谷に行き上原氏より一円を受領して帰る
來訪者蜂谷芳太郎氏爾来本院の事務員たる人神田区駿河台西紅柳町五、矢野房代方に宿泊セらる

廿九日

木曜日晴天大塚氏と共に樺山家及清浦家を訪ふ不在なり用務不弁
壱円の賛助金を集金して帰る外に壱円也集金
井出君來所す

三十日

金曜日本部より電報あり博覧会出品取さげに出張し夫れより賛助金壱円を得て午后二時帰館す終日無事

三十一日

土曜日本日は決算日以て山本は終日在宅大塚氏二三同情者訪問せらる
芝清浦奎吾殿に紹介方依頼す
収支決算書本部へ送附す　清浦殿より承諾を不得ず（ママ）
本月の決算拾五円三十三銭不足額を告ぐ

九月一日

日曜日休務大塚氏浅草教会に行く

九月二日

月曜日午前八時より事務員一同外部に出発す山本事務員賛助金（月掛ノ分七十銭）（年一回ノ分）計壱円七十銭集金す午后手繰の整理をなす

大塚氏午前は麹町区内午后本所区内に運動セられ賛助金五円と新賛助員壱名を募集セらる草野氏より物品と慈善券三十枚受領セられたり北海道石垣氏宛大火見舞状を出す

九月三日

火曜日晴天午前八時半より大塚山本外出各方面に向ふ山本小石川及巣鴨にて賛助金四円を集金し來る

元本院事務員たりし村田君來所セられたり

本日より朝夕冷気を覚ゆ日中は未だ中々に暑気甚し

九月四日

水曜日曇天

山本事務員麻布区及日本橋へ出張八拾銭集金す本日北海道札幌宮井事務員より札幌発会趣旨書送り來る只管盛会ならん事を祈る大塚氏中島錦五郎氏の賛助金弐円を受領セらる

九月五日

木曜日曇晴中間にあり時々雨降あり

大塚氏は飯田町の鈴木梅吉氏を問ふて來る十日來るべきを約して帰らる

山本事務員は三田綱町森山氏より賛助金壱円を領収す

其他記すべき事項なし

六日

本日金曜日晴天大塚氏と共に四谷牛込方面に向ふて古屋平松永井梶塚船橋松井等を訪問して賛助金三円を領収して午后五時帰宅セり

夜ハ大塚氏と共にユニバーサリスト教会に行き十時過帰宅床に就く

七日

土曜日晴天時々降雨あり山本は豊多摩郡千駄ヶ谷町に物品受領に出張す賛助金一円集金外ニ廿五銭月掛けの分集金大塚氏は内務省

に出頭もっぱら勤められ序を以て賛助金一円を集金セらる
入江氏より電報ありハチタニオルカヘンマイリヱと、即チ本日神田の仝氏宿所を問ふて在否を問ふて後返電セり曰く
ハチタニミツカオカヤマヱタツタ」右の如く返電す
本部より月内の運動方針を尋ね來りし為め大塚氏より萬事返信セられたり

八日

日曜日なり一同休務す大塚氏は下谷七軒町の教会に説教セらる大雨あり外出すこぶる困難なり横濱より山田治三郎君來京す夜の列車にて帰濱セり

九日

月曜日夜來の暴風雨止し且ツ降る外出不叶

拾日

本日は火曜日なり大塚氏と共に麹町区飯田町鈴木梅吉氏宅に行き基本金参拾円の寄附を受く午后山本芝にて壱円也賛助金を収金す
大塚氏は樺山家に行かる
日高善市氏下河原友吉氏の移轉を本部に報告す

拾一日

本日は水曜日終日曇天大塚氏は樺山家を訪ふて本日小石川及本郷大学に行き午后一時帰所夫れより午食を濟して後郡部代々木村に出張す
賛助金壱円九拾銭集金す
来客二名大塚氏の友人にて朝比奈氏父子宿泊セられたり
本部より新報到着セり

拾二日

木曜日大塚氏の友人朝比奈氏父子今朝横濱に出発セらる大塚氏は芝高輪方面に行かれ山本は下谷に向ふ二三氏を訪ふて午后六時帰宅セり
本日下谷入谷町五十五近喰療院主來訪して孤児救濟を依頼セらる
一周日以内に返事すべき様申置きたり

拾三日

本日金曜日北海道より電報あり小太鼓のバチ二本十字堂より買入れ室蘭庵原文太郎氏宛発送セり
土居君より手紙あり幻燈画五枚を吉沢商店に注文す十五日出來シ

筈

賛助金集金弐円也

山本は下谷入谷町□□□□（地名）と云へる内を問ふて生活模様を調セし處救済之必要を認めず午后六時帰所す

大塚氏は午前中芝方面に行かれ松方伯及吉村鉄之介氏を訪問セられ夫れより二本榎の田島氏及ウヱスト氏を訪問セられたり午后は京橋の萬木氏を訪問して賛助金を領収セられたり

本日は晴天なり大ニ冷気を増す

拾四日

本日は土曜日なり大塚氏と共に芝に出張し（ウヱスト）氏宅より写眞ブックを受けて夫れより浜口氏宅に石井政太郎氏を問ひ夫れより内田家に立寄り慶應の中村千之介氏を尋ね松方夫人の基金拂込を請求し夫れより芝西應寺町の吉村鉄之介殿より弐拾五円を行て帰宅し午后は四谷にて賛助金壱円を領収し二葉幼稚園を訪ふて午后五時半帰宅夜大塚氏は酒禁会の演説会に行かれたり其他記すべき事なし

拾五日

本日晴天なり大塚氏麻布教会に朝の禮拝説教をセられたり山本は番町教会に列す幻燈画五枚室蘭庵原氏宛発送セり

拾六日

本日月曜日晴天朝來両名にて本所寺島町に谷岡氏及浅田氏を訪ふ水害後にて賛助金を領するを得ずして引上げ本郷にて賛助金廿銭を領収し尚二三の賛助員を訪問す午后四時山本帰宅深川佐賀町窪田弥兵ヱ殿より端書あり寄附の通知なりし故山本事務員直に出張し金五拾円を受領す紀念として写眞画帳壱冊を進呈して帰る

北海道土居君宛衣類発送す

拾七日

本日火曜日雨天入江氏より端書ありし為め樺山家へ出頭奥令夫人に面會し慈善会之事を聞き取りて帰り直に入江氏へ返事セり午后山本日本橋小舟町第三銀行内渡邊捨三殿及安原正一殿より古筆五百本を受たり外に臨時寄附金壱円を得て帰宅す

大塚兄と共に慈善会開会の事を相談す

本日麹町銀行に金五拾円也當座預けをなす

本部古村氏より端書あり東北送還児五名東京事務所へ送り來る事を報ず引率出発順備をなす

拾八日

本日は朝來大雨の為め午前中止り午后雨をおかして荒川氏令妹の

葬式に列す午后四時帰宅す本部小野田鐵也氏夫人より電報あり「アスアサ五ジツクタノム」と

拾九日

本日木曜日午前七時送還児六名新橋に到着す小野田令夫人引率せらる土居夫人山本出向ひをなす銀行より旅費として参拾円を引出す

賛助金壱円三十銭を領収す

児童一日滞在す

廿日

本日金曜日大塚氏前六時より児童五名引率して宮城福島に出張す

小野田令夫人と共に見送る

午后は山本事務員は日本橋小舟町安田銀行に出張夫れより青年会館に露無氏の壱円を支拂ひ引返して四谷の黒沢慎介及江口氏を訪問す後日届くるとの由申居りたり帰りて庭掃除をなす

東北児童帰国に就き電報弐回打電す

廿一日

土曜雨天なり朝小野田令夫人を案内して芝区白金台町の石川政則氏の宅を問ふ其處にて別れて小生は今里町の明治学院に行き石本貫一氏に面会す夫れより田島氏を訪ふ不在の為め高輪に出で二三賛助員を訪問して帰宅セり午后四時過ぎなりし

庵原文太郎氏よりはがきにて幻燈画の受取り來る

廿二日

日曜日雨天なり休務す

今朝大に地震ふ

廿三日

本日は月曜日晴天山本事務員芝に出張賛助金弐円五十銭収金す

大塚氏東北より帰京せられたり北海道より電報來る不明なれば打返し打電して問ひ合す返電不來

越後柏嵜より來電ありアスゴヂウエノエツクアベ

廿四日

本日火曜日秋季皇霊祭（曇天）

本日は山本は千駄ヶ谷に町田賛助員を訪問す大塚氏は芝方面に運動セられたり

今朝越後柏嵜より□□老人來着す正午頃北海道より湯川夫人□□小児を引連れ來着す□□老人小供と共に宿泊す

北海道より電報ありコルネット及ライム、火口を小包にて送附す

仝時に通信す
本日電報二回來着昨日の返電なりし

廿五日

賛助金壱円三十銭収金雨天の為め午前中在宅午后大塚氏は二三訪問せられ山本は芝に向ふ

廿六日

本日は曇天なり午前日本橋に出張し賛助金収金壱円なり
大塚氏は門野氏及松方氏へ電話し交渉をセらる
宮井氏（青森）よりはがき來る仝氏宿所青森市和島支店内

廿七日

本日金曜晴天朝九時より小野田夫人大塚氏土井夫人の（ママ）及山本の四氏東京市養育院を参觀し正午十二時出立小野田夫人土井夫人と別れて大塚氏と共に牛込鶴巻町の大隈氏を問ふて寄附金拾圓を得て帰路池田氏及村松氏米倉氏を問ふて帰宅す
午后五時なり夜は一同番町教会に祈祷会に列す大塚氏小野田氏山本三氏在宅四方八山の話に時を移し一同十時半床に附ス

廿八日

本日土曜日なり（晴天）
大塚氏神田イーストレーキ氏より五圓の寄附を得らる
山本は四谷より神田に回りて賛助金壱円を領収す
大塚氏本所に出張慈善会開会乃順備を兼らる
本部より通信あり満国増援隊の出発を報す
本夕大塚氏は小石川柳町の浸霊教会に禁煙演説をなす山本も同伴す

廿九日

本日は日曜日なり一同休務す

三十日

本日月曜日（晴天）山本は芝金里町に行く田嶋氏及石本氏を問ふて不在なり夫れより帰路内田氏に立寄る又不在なり午后下六番町に行く
大塚氏は国民社に徳冨先生を問ふて開会の事及他方面紹介方を依頼セらる
本日事務所収支決算書を造る五拾弐円三十八銭五厘を本部に送金する様なりたる為め幸便小野田夫人にたくす事となす

本日下女の件に就き千駄ヶ谷七四四高橋和足氏より紹介ありたる為め返信す
日正信亮氏より物品寄附の約束を受く明日受領せんと約す

拾月壹日

本日は火曜日なり（朝來晴天）
本日は正田老母より小供着袖なし拾参点及小供着壱枚の寄附を受く
八王子片倉組繰返部山田勝蔵氏より（ライオン慈善券参百五拾枚の寄贈を受く
本日は本部に送るべき寄附物品荷造をなす五行李を造る
午后大塚氏山本両氏にて本所伊勢平楼に出張座敷の借入れを定む

弐日

本日水曜日（晴天）
來訪綱島牧師夫人
孤児引受の件　日本橋新衛（石脱カ）門町十一渋谷弥助氏の夫人來院せらる
本日は大塚氏と共に樺山夫人を問ふて紹介状を貰ふ序を以て山脇房子女史へ電話を以て在否を問ふ午后三時より四時の間に在宅の由を聞く大塚氏其刻夫人に出張せられ萬事よきに運ばれたり山本は牛込小石川に出張し賛助金六十銭を受く
大塚氏仝朝門野駿子氏を訪ふて金弐拾圓の寄附を受く
本日の事務上記すべき事は別に無之候
土居氏より來状北海道運動の好況を報じ來る

参日

本日木曜日（雨天）
本部より通信來る神田末廣町十七山口秀光氏より弟子之雇入の件申シ來る返信す
本日四拾五銭賛助金収金す
本夕平豊彦氏より慈善興業の件申込あり返事は明日に定むる事とせり

四日

本日金曜日（晴天）
朝來大塚氏と共に芝に行き四国町の戸板せき氏より弐円五十銭を収入し夫れより松方氏宅にて五拾圓を基本金として受け猶轉じて慶應校内中村氏及潮田氏より物品を受領して十二時過くる事三十

分にして帰所午后は物品荷造にておわりたり
平氏へ返信セず

五日

土曜日（曇天）
賛助金弐円拾銭収金（山本氏）栗塚省吾氏夫人を訪問し夫れより深谷氏寿屋岩蔵を訪問して帰處す

六日（日曜日）
壱同休務す樺山家へ細川家の紹介を依頼す夜平豊彦氏より相談ありたれ共相談の結果不調となる

七日（月曜日）
賛助金五拾銭収入牛込米倉氏を問ふ移轉の結果訪問し意不通（ママ）ぜす
午後帰宅す
大口寄附物品を新橋より本院に宛送附す
栗塚家并ニ細川子爵夫人を訪問す又野間氏をも訪問す

八日（火曜日）
樺山伯清浦子岡部子へ宛依頼状を差出す
午后大塚氏は浅草に慈善会に係する役員の撰定に従事セられ清本及活動写眞の方を定めて夜に入り帰宅セらる山本は芝高輪に石本氏を訪ふ不在の為め面会を不得（ママ）ず外に三十銭月掛ノ賛助金を収入して帰宅す
本日午后三時三十分下ノ関直行列車にて小野田令夫人帰岡セられたり
電報を以て北海道別動隊にフイルムを求む返信不來

九日（水曜日）大雨降り續き終日引籠り候本日は慈善会発起者の承諾を得る為め各手紙を発送す夫れより通券等の下調べをなし一日を終る

拾日（木曜日）晴天
本日は大塚氏慈善会の件に就き浅草及神田本所各所の賛成者を訪問して各件を確定セらる山本は終日宅にて通券の調べをなし北海よりの注文によりライムを青森宮井氏へ送り火口を北海土井君へ

発送す
浅草千束町二ノ三五三藤岡大亮氏及浅草区北本仲町壱小森久弥氏宛はがきを送る
南部誠人及岩瀬氏は発起人不承知の旨申し來る

拾壹日（金曜日）山本一日休務ス但シ大掃除の為め
大塚本所の栗塚氏及浅草の藤岡小森氏を問ふて演藝の事を定めらる
本日綱島牧師の手を通して岩井禎三氏より本院の為めとて金参拾円を給ふ山本受領して受領書を岩井氏宅へ届く

拾月拾弐日（土曜日）晴天なりし
本日は町内大掃除にて一同休務して掃除に罹る殆度終日些事に罹る

拾参日（日曜日）雨天なり
一同昨日の労を慰する為一同休務す大塚氏夜は浅草に行かれ拾時迄教会にて説教をなし帰宅セられたり

拾四日（月曜日）雨天なり
中山一信君の葬式あり各室の障子張替をなす大に清し為に障子紙参本を費したり
青森市濱町和島旅館本店内宮井岩太郎氏宛マンガン五瓦小包便にて発送す

拾五日（火曜日）晴天
本日は午后より本所区の賛助員を訪問して慈善会の発起者たるの承諾を受く大塚氏は両国橋北に山本は南に向ふて進行セり

拾六日（水曜日）晴天
本日は大塚氏野間氏へ行き寄附金に就て談ぜらる本日小包郵便にて衣数（ママ）洋服を仙台市郵便局前佐藤旅館内入江大九郎宛発送セり
慈善会の通券を調べて豫定す

拾七日（木曜日）晴天
本日は神嘗祭なり

北足立郡蕨町□□□□□□□方□□□□氏より小児救済方依頼し來る仝時に返信す山本は本郷の内田看護婦会に乙羽氏を訪ふ在矢野氏志田氏を訪問して正午過ぎ帰宅午后は牛込東大久保百人町に中村氏及余丁町の小坂竹子氏を訪ふて賛助金を貰ふ

（地名）

拾八日（金曜日）晴天

本日は下谷区上根岸町一百廿木田月子氏の賛助金五拾銭を領収し物品寄贈を受く（但シ古本雑誌等）

拾九日（土曜日）

麻布我善坊町三四鈴木要子殿より物品の寄附あり山本出張受領す

廿日（日曜日）晴天

山本氏番町教会ニ礼拝ニ出席せられ午后は揚飛ばり社ニ趣かる大塚は若松教会ニ礼拝説教をなす

廿一日（月曜日）小雨あり

山本氏ハ慈善会通信を認めらる大塚ハ本所方面ニ慈善会発起者を訪問す午後は本院同情者の陞爵者并ニ授爵者ニ向け祝賀状を呈送す又佐竹侯爵令夫人逝去ニ付吊詞を送る

廿二日（火曜日）

東京薩摩琵琶研究会長平豊彦氏より残予金弐拾圓寄附せらる

三十日

金弐拾五圓也大塚氏の運動により神田元柳町見番より寄附ありたり

外ニ参円廿銭慈善会通券賣上

開会順備にて多忙し

芝区愛宕下町金水堂より雑記帳六百冊の記附ありたり山本出張受領セり

山田古能子氏より下女の申込あり小石川より荏原郡大井村南濱川一八九〇在へ移轉セりと

三十一日

本日慈善会運動

仁松令夫人より拾七円弐拾銭受領
二宮氏の賛助金壱円也受領
本所千歳町の川嵜家より参円の寄附申込を受く

十一月壱日
一第一夜の開会を本所中村樓に開く來会者参百七拾弐名
一会場収入　弐拾六圓四十銭外に髙部氏取次六円と富藤氏より拾圓六十銭を収入す大盛会の中に閉会セり

十一月弐日
一第二夜仝所に開会
來会者四百拾一名会場収入弐拾七圓五拾銭　四円也浅草美普教会より寄附あり　大盛会に閉会セり四竈両令嬢のヴァイオリン琴の合奏久留島武彦先生のおとぎ話を加へられたり
孤児甲府より來着ス（□□□□）山田美弘氏引連れ

十一月参日
一本日は草野氏へ琴を返済し夫れより新里氏へ廻り金拾壱円五銭及寄附金参円を得たり
大塚氏は浅草に清本連中の慰労会に出席セられたり
一同日孤児（□□□□）山田美弘君引連帰岡セり

十一月五日
土居夫人午前十一時列車にて岡山に帰る
午后本所に至り各所より寄附金を受くる事廿六圓余午后は大塚氏の送別の宴を開く

六日
午前大塚氏帰院セらる十月分決算参拾壱円五十銭を大塚氏に托す
本日の寄附金五圓を得本日より佐々井辰次郎氏來所して手傳われたり

七日
本日も仝しく本所の運動に盡す参圓五拾銭寄附を受く
救世軍へ拾五銭寄附す

八日

本日も前日同様本所に運動す四圓廿銭の寄附を得たり
日本橋通り旅籠町浅井商店内赤誠会より金五円賛助金として領収す
本日は新賛助員弐名なり

九日
本日は前日同様本所区に運動す寄附金壱圓也受く
本部よりはかきあり　日本橋通り油町笠井新造氏より壱圓を中村樓開会の通券代として本部へ直接送りたる旨の通信ありたり

拾日
本日は日曜日にて小石川の大竹氏赤沼氏を訪ふて賛助員の賛同を得んとす不在なりむなしく帰宅す夜に入りて芝の小田易院に雑記帳の残り弐百部を受領セり

拾一日月曜日（晴天）
本日は本所松井町に出張し寄附金弐圓を受く帰途小石川の大竹赤沼両氏を訪問して不在なり賛助金九十銭を受領して帰宅午后五時なりし

○今井信蔵氏孤児引連れの通知あり
入江氏より金子受領の報ありたり
孤児□□□□五才今朝來所シ引取る

拾二日
本日は山本引越しに就き一日内事務を取り雑記帳を本部に送る様荷造りをなす
賛助員六名（月掛けの分）出來
北海道釧路町北東新報社長西島勝氏來訪あり活版職工入手の向き申込みありたり

拾参日
本日寄附金壱円を受け賛助金壱円参拾銭を領収す
佐々井君へ手紙を送る

拾四日
本日賛助員壱名を得る賛助員池田次郎吉氏より賛助金支拂の通知ありたり

拾五日（金曜日）

賛金壱円を領収す
京橋月島に同情者を求む不在の為め不逢夫れより芝巴町に小學校教師金子八重子氏を問ふ轉住先不明空し夫れより牛込高田に賛助金を領収し引返して小石川へ廻り本郷元町の大竹姉を問ふ後日申込むの約束をなして帰る

拾六日（土曜日）
賛助金弐十五銭餘領収セり牛込小石川を午前中に訪問し午后青山方面に出張二三を訪問す午后四時頃帰宅セり
土居君の小包を発送セり
シャツ袴下等火口弐個を送附セり

拾七日（日曜日）休務ス

拾八日（月曜日）本所誉野氏より切符代弐圓也領収セり仝時に物品受領して帰る神田今川小路二丁目十六濱中仁三郎氏より慈善興行の承諾を申込む午后承諾書を送る

拾九日
本日は神田大工町富藤氏より賛助金廿銭を受け夫れより大学病院に賛助金廿銭を受け夫れより大井乙羽氏を訪問して不在の為め空しく帰る午后五時なりし
井出氏母堂及令妹の両氏來所セり
本日岩佐徳子殿逝去セられしに就き悔状を其家令御中へ送る

廿日
本日は降雨の為め引籠り内事務を取る午后牛込の賛助員を訪ふ不在不逢して帰る

廿一日（木曜日）
賛助金五拾銭也京橋八丁堀に集金す本所松井町の石井氏を訪ふ断りを受く帰途高橋岩次郎氏を大橋教会に問ふ不在なりし

廿二日（金曜日）
賛助金壱円五拾銭を集金す
岩佐徳子氏の葬式ニ列ス夫れより新橋駅に回り孤児発送を聞合せ月島に辻田邦太郎君を訪問す午后五時帰宅セり

廿三日　賛助金重複領収に就き壱圓を内海安太郎氏へ支拂ひ戻したり
友人を二度目月島に問ふて賛助員を成られんことを勸誘す
夜は濱中氏の催しに掛る慈善興業を見物す

廿四日
日曜日にて休務す本日は出身の東京在住者の親睦会ありたり
廿五日
本日は決算及本部への通知をなす北海道利別村字インマヌエル鈴木善四郎氏より孤児二名救済方を依頼し來る直に本部へ向け其旨を通ず
廿六日
賛助員村松君來訪賛助金廿銭及寄附金廿銭領収す
山本事務員横濱に出張す午后五時帰京セり
北海利別の鈴木善四郎氏よりリンコルン傳壱冊を寄附セらる
廿七日
本日は四谷の上原特務を訪問不在夫れより庄司泰氏を尋ね移轉先不明空しく引返す午后は賛助員を本所に訪ふ午后五時帰宅セり土居君よりはがきあり（ライム壱鑵を仙台に送れと）
廿八日
本日は孤児□□□□発送し為め新橋に出張して其手續を了し正に発送センとするとき孤児泣ひて立たず止なく引返し明日発送の事に取り極む
孤児の受けし寄附五十銭程ありたり些分孤児所持セり
四谷及神田に出張す濱中氏より拾五圓也寄附ありたり
廿九日（金曜日）雨天
本日孤児□□□□を新橋駅より岡山に向け発送す直に本部へ打電す
即チ（三ジハンコジタツタシラス）右之通り
孤児途中安全ならん事を祈る事節なり
孤児の旅費弐圓五十一銭也し（但し半額にて急行券共なり右後日の為め記す
三十日（土曜日）晴天
本日午前中は十一月分決算書を造る午后は神田ニ二宮氏の賛助金を領収し夫れより牛込に巡回して拂方町九番地に行き物品壱行李程を山口貞子氏より受領して午後四時帰宅す本部への報告をなして其日の事務をおわる
静岡縣富士郡島田村字青島弐番地牛乳搾取所三鱗舎山本久太郎氏より徒弟二名程入用の向き申し來る本部へ返信方を依頼す

拾弐月壱日

本日日曜日休務（晴天）寒冷

土井君へ冬服壱着及ライム壱鑵を送る

芝区白金三光町五百拾九山路方矢野茂見殿より弐圓を受く但し高輪慈善会の通券代として収入

貳日

本日は月曜日（牛込及赤坂に賛助金を集金す廿五銭也受領セり赤坂髙樹町の大導寺氏宅を訪ふ不明の為め内村氏を訪ふて尋ねたれ共不明なり

本日銀行為替を以て四拾六圓廿七銭五厘を送金す

銀行預け金参拾参圓六拾四銭也とす

河本亀之介氏糀町上六番地ニ移轉の通知あり

参日（火曜日）曇り雪模様なりし

深川栄昌院殿より拾五圓の寄附ありたり賛助金参圓拾銭受領セり

青山髙樹町十四志賀イチ子殿より仝所へ糀町元園町より移轉の報知ありたり物品古筆の寄附を受く

四日（水曜日）晴　寒天なりし

本日は賛助金集する事壱圓五拾銭新賛助員壱名造る

本日は豫て約束ある寺尾きく氏を天文台官舎に問ふ病気と云ふて不合空しく帰る

佐々木一男君府下大久保村西大久保二〇四番地佐藤方より來訪セらる

美幸坂町二七古藤ユキ子殿よりライオン慈善券四拾弐枚寄附を受く

五日（木曜日）晴天

本日芝区愛宕下町一ノ三林博太郎氏より故正二位勲二等伯爵林友幸殿の遺志により弐百円を寄附セらる直に銀行為替を以て本部宛送金セり

京橋築地左河氏より七圓の賛助金を領収す外ニ神田堅大工町富藤金太郎氏より十銭を領収す

日本橋下槇町安斎とみ子氏より物品を受領して帰る

六日（金曜日）晴天

午前中は矢野氏及寺尾氏宛の書面弐通を認む午后牛込弁天町ニ賛助金五十銭を収入す夫れより本郷弓町ニ大竹姉を訪ふ不在の為不逢して帰る午后四時半井口君の宅に分娩の喜あらんとす

七日（土曜日）晴天

午后七時三十五分上野発列車にて仙台應援の為め出張す

來訪者賛助員湯川正巳殿及湯川

八日（日曜日）不在

九日（月曜日）不在

拾日（火曜日）不在

拾一日（水曜日）不在

拾二日（木曜日）午后九時仙台より帰京

拾三日高原君帰院セり

拾四日（土曜日）

賛助金拾参円也領収セり本郷日本橋より大森新井宿に行き午后六時帰宅す

拾五日（日曜日）休務す

拾六日　山本頭痛症にて半日休務す午后四ツ谷に賛助員を訪問す

寺尾きく氏へ手紙を以て返信を乞ふ

十七日（火曜日）晴天

本日は日本橋浜町より深川木場町に行き夫れより西六間堀に出で夫れより本所向島小梅町（不在）須崎町を訪ふて渡しにて浅草に森氏を訪ふ又不在なり夫れより下谷上根岸に木田月子氏を訪ふて午后四時帰宅本日の集金僅に四拾銭夜は記章（岡山孤児院）注文の為め青山の有松氏を訪ふて午后十時帰宅す

本日寺尾氏へ再度の手紙を出し請求す

拾八日（水曜日）晴天

來訪者多田静夫（麹町上二番町）

本日は小石川賛助員（月掛の分）訪問不在の為め集金出來ずして帰る

佐久間宛帽章参個を郵送す

拾九日（木曜日）晴天

代々木村に高橋和足氏を訪ふて賛助金を受けんとす不在再來すべき様きく夫れより青山の鈴木操氏を訪ふ不在又集金不出來帰宅入江大兄仙台より帰京午後報告を五ツ程書く寺尾きく氏より断りのはがき來る辻内太吉君より來信あり直に返信す

廿日（金曜日）晴天

午前中東北慈善会報告書を造る入江氏の依頼により午后は報告書を造りて本部佐久間君宛送附す

本日は三十銭の寄附を受く

廿一日（土曜日）晴天　風

午前より入江氏の依頼により北海道以來の出金調を造る五十銭の寄附とライオン券七十三枚及古本を麻布箪笥町宇佐美きよ子氏より貰ひうく

佐々木一男氏よりはがきにて樂隊の帰京を問ふ返事す

廿二日（日曜日）晴天

入江氏東北々海巡回中の収支決算書を造り本部宛送達セリ

午后山本事務員妻男子分娩ありしため出勤断り來る

廿四日　音樂隊一行東北より帰着一泊の上帰岡セリ

廿六日　午前中北海道利別より□□兄弟來京午后三時の列車にて直に本部へ送達セリ

廿七日

本日は海軍省より神田に回り一円廿銭賛助金を収金して帰宅セリ

午后休務セントセシも都合にて四谷の賛助員を訪問不在不逢して午后四時帰宅セリ